

「ハレとケ」 通信

第25号

「非日常」と「日常」の、日本の風情のかたちを楽しむ暮らしをご提案する季刊誌です。

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

物語のある建築 (25)

「―地域との交流を目指して―

救護施設 【清水園】 改築工事」

「ハレとケ」のある 暮らしかた

【季節に応じた暮らし方／端午の節句】

中津万象園「花の歳時記」

【早春の露地につつましく咲くアセビの花】



平成27年 春 発行

キュウリグサ。葉っぱを揉むとキュウリのような香りがするのでその名がついたそう。
いかにもワスレナグサの仲間らしい可愛い花で、大好きな植物のひとつです。

―地域との交流を目指して―

救護施設【清水園】改築工事」

既存の施設に、食堂・地域交流スペース・事務所等を増築した今回の工事。公共性が高く、『最後のセーフティネット』とも言われる生活保護を対象とする【清水園】は、『第一種社会福祉事業』を営む事業者として、社会でどのような存在であるべきか、真摯に向き合い続けています。
――今回は、そんな【救護施設 清水園】改築にまつわる物語です。



今回の物語のある建築の舞台は、坂出市にある【清水園】(社会福祉法人 清水園／理事長 松浦稔明氏)。設立は昭和三十三年で、生活保護法に基づく「保護施設」のうち、「救護施設」というジャンルに分類される施設である。

生活保護と聞くと、世間を賑わせた不正受給のニュースを思い浮かべる人も多いのではないだろうか。言うまでもなく、生活保護法とは、日本国憲法第25条の「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という条文に基づく法律で、生活保護法第3条では、「この法律により保障される最低限度の生活は、健康で文化的な生活水準を維持することができるとでなければならぬ」と規定されている。

その生活保護法に基づき設置された清水園であるが、昭和三十三年の設立以来、その運営方針は大きく変化してきた。

「生活保護とは、いわば『最後のセーフティネット』。それだけに、時代の変化や国・県の経済状況に直結した問

題であり、考え方、舵取りは非常に難しいのではないだろうか。その意味では、清水園のような救護施設のあり方を考えることは『最前線の議論』とも言えます。」と理事長の松浦氏は言う。

また、生活保護法を根拠とする保護施設には、他に「更生施設」「医療保護施設」「授産施設」「宿所提供施設」があり、いずれもその利用者の生活、人生を支える場所を提供する入所系のサービスである。そのため、経営安定を通じた利用者の保護の必要性が高い事業(社会福祉法における第一種社会福祉事業)として位置づけられており、社会福祉法人が行政でなければ運営することはできない。

その中でも「救護施設」とは、『身体や知的、精神に障がいがあり、経済的な問題も含めて日常生活をおくるのが困難な人たちが、健康に安心して生活するための保護施設』のことを指している。平成二十一年度四月時点では、全国に188か所あり、約一万七千人のさまざまな障がいを持つ人が生活を送っているという。(全国救護施設協議会ホームページより)

その救護施設を大規模に改築した今回のプロジェクト。改築工事の話が持ち上がったきっかけは、老朽化により耐震工事が必要となったことだった。

そして、もうひとつの流れとして松浦理事長は重要な点を挙げた。

「社会保障費の増大が国の予算を大きく圧迫している今日、社会福祉法人に対しても、そのあり方に対して厳しい目が向けられるようになりまし

た。
すなわち、『今の社会福祉法人は、地域への貢献度が足りないのではないのか？単なる事業屋になってしまっていないか？』という批判です。そしてその動きは法律の改正に向かいつつあるのです。

そのさなかに起こったのが今回の改



↑理事長 松浦稔明氏

明るいマルチホールで、子ども達の訪問を楽しむ入所者の方々。様々な用途に使えるよう、空間を広く取り、ステージや鏡などの備品も整っている。



築であり、いうまでもなく清水園は、経常的運営はすべて税金に頼っている

すから、行政の補完部分としての地域貢献とはいかなるものかを模索していかなばなりません。このことは、今回の改築の重要なコンセプトとなりました。」

そこで生まれてきたのが、地域に開かれた『社会的資源』としての改築のあり方である。

地域に開かれた施設といっても、【清水園】のある場所は、坂出の八十場に近く、市街地からは離れている。その理由は、設立された昭和三十三年当時、国の障がい者福祉に対する考え方が、保護を中心とする“コロニー”と

しての施設建設の方向性だったという事情に遡る。

同じ事情を抱えた人たちが集まって暮らす“コロニー”というスタイルは、そこで暮らす障がい者にとっては、生活の全てを委ねる場所であるにも関わらず、地域からはあまりその存在を歓迎されないというジレンマを抱えることとなる。それゆえに、郊外に隔絶した状態で建てられることが多く、清水園も例外ではなかった。

これに対して、約二十五年ほど前から地方でも注目され始めたのが、「障がい者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の

望ましい姿である」とするノーマライゼーションという考え方。社会生活を共にする、という観点から「地域に返せ」という流れが起こってくる。

しかし…と松浦理事長は言う。

「でも、実際に『地域に帰る』ことは難しい場合が多いのです。清水園の入所者には、50年近くもここで暮らしている人もいるし、肉親とのつながりも殆ど途絶えてしまった人たちが多数を占めており、帰る場所がある人は少ないのですから。」

そうであれば、ここでできる“ノーマライゼーション”の実現は、『この施設の中でいかに社会との係わりを持ち、社会感覚を持てるようになるか』に

個室として使用可能な会議室をはじめ、社交ダンスなどの各種スクール、映画上映なども可能なマルチホールは、地域との交流を目指し、多くの外部の人々に利用していただくことを念頭に計画されている。



係っていることになります。つまり、必要なベクトルの方向は、『外から内』。いかに外との交流を生み出すか、そのためにも、地域における『社会的資源』としての存在意義は大きく、今回の改築工事の重要なポイントになっています。』

今回の改築工事の中で、目玉となる存在は多目的に利用できる『地域交流スペース』。その名の通り、「地域の人に積極的に施設の中へ入ってきてもらい、交流すること」を目的にしている。

といつても、従来の『慰問する側・される側』の関係ではない。貸しホール等として、地域に開かれた公民館的

な役割としての位置づけを目指している。それは国の考える新しい福祉施設のあり方の方向性とも重なるが、清水園の入所者にとつては、新しい社会との接し方を生み出すきっかけにもなる。

「ここを施設外から利用し訪れる人に、格別何かをしてほしいわけではない。ただ、何度も会い、接することで、お互いのことを知っていく、親しみが湧く。…それが社会に受け入れられていくということにつながるのではないでしょう。その繰り返し、施設に社会感覚という風を呼び込むことに結びつき、結果的に、ノーマライゼーションが実現されていくと考えてい

ます。」(松浦理事長)。その『社会に開く』イメージは、建設計画の随所に見られる方針である。

たとえば、駐車場。当初の計画からは大きく変更し、50台程度駐車可能なスペースを確保、外部からの利用者の便を考慮した。また、『清水園と地域を結ぶ会』と相談をして、多目的に使えるよう交流スペースの仕切りをできるだけ少なくし、220名を収容可能なマルチホールとして整備。各種講演会、社交ダンスやブレイクダンス等の練習や、カラオケ大会など、定期的を訪れる人が生まれるように工夫をした他、さらにお茶席にもなる和室を備えた貸し会議室も準備するなど、

公民館よりも使いやすく訪れやすい場所になるよう考えている。

ただ、そのように「外から内へ入ってきてもらう」ことを前提とした取り組みは、まだまだ珍しく、職員も多少の戸惑いを感じているかもしれないと松浦理事長は言う。職員だけでなく、地域へもこれから積極的な周知が必要だ。「いつか、地域の高齢者が、清水園に週に1回昼食を食べに来る…といったサービスも生まれてくれば良いと夢見ているけれど、まだまだ努力していかねばならないと思っています。」(松浦理事長)。

その一方で、新しい課題も生まれてくる。それは、入所者の側に、『社会

を受け入れる『素地を作るという取り組みだ。

「社会との接点が乏しかったこれまでの経緯があるだけに、施設外の人々と『社会生活を共にすること』が



年1回発行の会報誌

一足飛びにできるわけではないかもしれない。例えば、これまで職員は入所者に対し、何よりも同情や思いやりをもつて接してきたけれど、社会と接点を持ちふれあうということは、何らかの役割や態度を要求される部分もあるのではないだろうか。そうであれば、多少の苦言や教育といった従来の福祉の枠を超えた取り組みが必要になってくるのは当然で、例えば地域の清掃活動等へも参加していくなど、こちらから責務を果たしていくという姿勢も求められるようになってくると考えています。」

地域に開かれた『社会的資源』として生まれ変わろうとしている清水園。この場所は、これからどうなっていくのだろうか。

「『救護施設としてどうあるべきか』から、『社会の中でどういう役割を果たすべきか』へと、変化せざるを得ないのではないか、というのが正直な想いです。

それは、社会福祉法人という社会的な視点が必要とする存在である以上ある意味当然のことでしょう。

地元の海岸などでの清掃活動を実施。多くのゴミを収集し、社会貢献意識も高めている。



そしてまた、パラリンピックの一連のいきさつに象徴されるように、知的障がいという定義はこれからますます明確に線引きすることが難しくなっていくかもしれません。

また、例えば、社会的に上手く順応することのできない人や、累犯犯罪を繰り返す人については、どこが救済していくのか。

『社会の中で果たすべき役割』を考えたとき、救護施設としてだけでなく、更生事業、失業対策事業における課題解決の方法など、異なる分野の事例を参考にせざるを得ない場合が起こってくるのは避けられないかもしれない、と考えています。さらには、



入所者の高齢化という問題にどう対処していくか?という課題もあります。

第一種社会福祉事業であることからくる重責は変わりませんが、広い視野で、社会全般の課題を解決していくという視点を持たざるを得ない、：そんな時代がきているのかもしれないですね。」(松浦理事長)。

外から内への流れをつくり、そして社会的な大きな視点を施設の中に求めている。

——新しいノーマライゼーションのあり方が、この場所で生まれようとしている。

(次ページ利用案内に続く)

○清水園 地域交流スペース利用案内（全て無料で使用できます）

清水園ホール（266.91㎡）

↓新春芸能大会で職員が利用者に
カラオケを披露！



↑ 社交ダンス練習風景

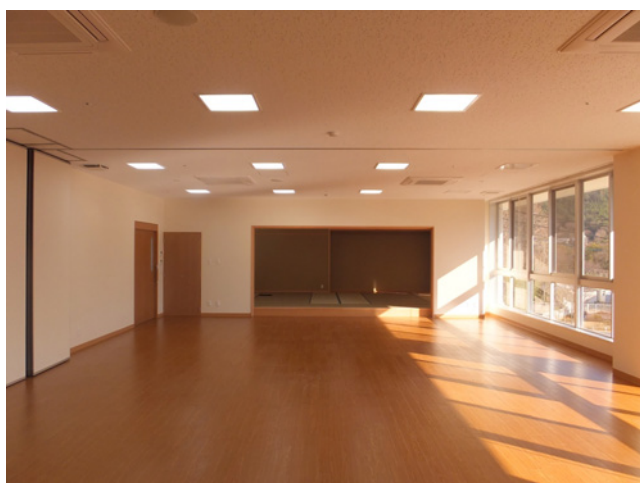


北側から撮影

清水園ホール控室（17.39㎡）



会議室（99.61㎡）



和室（作業室2）（47.04㎡）



【清水園からのメッセージ】

幅広く地域の方々や各種団体、グループの皆様にも使用していただき、交流を図っていきたくと考えています。清水園ホール以外にも、会議室と和室を一体的に使用することも可能です。施設を開放することにより社会貢献に努めていきます。どうぞご希望がある方は**救護施設清水園（0877—46—4277）**にご見学にお越しください。

「ハレとケ」のある 遊びかた・暮らしかた

この季節を暮らす。(25)

【季節に応じた暮らし方／端午の節句】



五月五日は「端午の節句」。「こどもの

日」、ゴールデンウィークという呼び名、

イメージの方が今は定着しているかも知

れませんが、男の子の節句として古

くから根付いた季節を代表する行事

です。

◆いつから男の子の節句に？

といつても、そもそも端午の節句は女性のための節句だったとか。

その始まりは、昔からあった「五月忌

(さつきいみ)」(男性が戸外に出、女性

性が家に閉じこもって、田植えの前に

穢れを祓い身を清める)という風習と、

中国から伝わった端午とが結び付け

られたものだったと言われています。

そして、奈良時代頃より、菖蒲を髪

に飾り、薬玉(薬草を丸めた玉)を贈

り合う宮中行事が生まれ、その「菖蒲

を髪に飾った」ことから、鎌倉時代頃

に「菖蒲＝尚武」と変化し、男の子の成

長を祝う節句となっていくたとされて

いるようです。

◆江戸時代の端午の節句

武家にとつて大事な意義を持つていた端午の節句。

江戸時代には菖蒲そのものにならな

りシンボリックな意味が置かれており、

邪気を払う意味から菖蒲で門や屋根

を葺いたり、戦場での前立物にも用い

られるなどしていました。

そして端午の節句の日には、上司、

親戚、友人と贈り物を持つて訪問し合

ったり、用人に持たせて奉公人へ祝いの

品を贈ったりということがなされてい

ました。

その祝いの品は、「粽」「魚」「衣類」な

ど。確かに、このほど刊行された、丸亀

藩京極家のお殿さまの一族である京

極高周・高岑の記した『丸亀京極家御

連枝日記』にも、五月五日には「干鯛、

粽などが殿様より贈られた」旨の記載

が毎年見られます。

また、その他にもギヤマンコップ、猪

口などの祝い品の交換も行われていた

ようです。

◆作るのは、柏餅？粽？

今、「端午の節句」といえば柏餅を思

い浮かべることが多いと思いますが、使

われている葉っぱ、何かご存じでしょ

うか？

ある調査によると、香川県で作られ

ている「柏餅」の葉は、サルトリイバラで

あることが殆どとか。



ちないことから、「子孫繁栄(家系が途

切れない)」という縁起をかついだ」もの

とされている柏餅に「カシワ」の葉が使

われていないのでは、なんだか可笑し

な感じがしますね。

ただ、この風習自体が江戸で生まれ

た物で、それが参勤交代で全国に広ま

った…と言われていますので、広まっ

た頃には本来の縁起担ぎは薄れてし

まっていたのでしょうか。

江戸時代、京極のお殿様は粽を贈り

合ったようですが、その粽にも、『蒸ら

した米を餅にし、マコモの葉で包んでイ

グサで縛り、湯がいた物』『うるち米

の団子を笹の葉で包んだもの』『もち米

の餅をワラで包んだ飴粽(あんちま

き)』『サザンカの根を焼いて作った灰

汁でもち米を湿らせ、これを原料に餅

を作りワラで包んだ物』と色々なもの

があるようです。

香川で今食べられているのは、ササや

茅で包んだ甘いお餅のように思います

が、江戸時代、お殿さまが贈り合った

粽は、いったいどんなものだったのしょ

うか？

詳しいことは今の段階では分かりま

せんが、想像すると楽しいですね♪

「花の歳時記（25）」

早春の露地に

つつましく咲くアセビの花

邀月橋を渡り八景池を右に歩を進めますと、前方に中門「松春閣」が見えます。その中門の向こう側には、貞享3年（1686）丸亀の代藩主京極重豊侯が、現在の「中津万象園」の前身とされる「中津のお茶屋」を造営した折の二棟の茶室（観潮楼と母屋）が現存しています。

私は茶道には何の心得もありませんがこの茶室を含む茶庭（露地）の雰囲気大好きで、この地をよく訪れ、四季の移りを楽しんでいます。その折ふと手利休が「露地は、俗世間から茶室に至る間に心身を清める大切な場所である」と論じた茶庭の心が私の脳裏によく浮かんできます。

この万象園の露地にはいろいろな花木が植栽されていますが、早春のこの地を訪れて私の心惹かれる花の一つがアセビの花です。釣り鐘形の白

い可憐な花を房状に垂れ、甘い香りを漂わせながら春風に揺られてシヤラシヤと乾いた音を立てているアセビの花には、思わず顔を近づけたくなります。この花に囲まれてお抹茶を頂戴すれば、まさに大気分と言えましょう。

アセビは日本原産で万葉の昔から多くの日本人に親しまれ詩歌にも詠まれています。漢字で「馬酔木」と書き、「アセビ」または「アシビ」と呼んでいます。この「アセビ」は有毒物質を含み、牛や馬などの草食動物がアセビを食べると、酔って足がしびれたようになることから、「足しびれ」が訛って「アセビ」または「アシビ」となりました。（長岡 公）

＜中津万象園・丸亀美術館へのアクセス＞
瀬戸中央道路
坂出北ICより約 8.5km／約 15 分
坂出ICより約 14km／約 20 分
高速道路善通寺ICより約 5km 約 10 分



【長岡 公 氏】

昭和 2 年 10 月 香川県丸亀市津森町に生まれる。
昭和 26 年 3 月 鹿児島大学鹿児島農林専門学校
農学科卒業

昭和 26 年 4 月以降
香川県公立高等学校教員として主基高等学校・飯山
高等学校・笠田高等学校・農業経営高等学校教諭、
高松南高等学校・飯山高等学校教頭

昭和 63 年 3 月 定年退職 香川西高等学校教頭

現在 公益財団法人中津万象園保勝会 理事

※主な著書に

「讃岐の名園紀行」（栗林・玉藻編／中・西讃編）がある。

雅題 文人華の世界（3）

「金丹九成」

枇杷の実九



今回からは万象園の茶亭・観潮楼にちなんで、文人の「華」を紹介致します。
金丹とは、不老長寿の妙薬のこと。秦の始皇帝がに命じられて徐福が不老不死の妙薬として持ち帰ったのは天台烏薬だったとされていますが、今も昔も不老長寿は永遠のテーマなのですね。「九」という数字は、物事が成し遂げられることを表す数字だそう。「不老長寿と生活の豊かさ」を表現した華とされています。

【編集後記】

『ハレとケ通信』の発行が、半年ほど空いてしまいました。いつも楽しみに御手紙をくださっていた皆様には、本当に申し訳ありません。その代わり・・・ということでもありませんが、このほど富士建設のホームページを一新致しました。（<http://www.fujikensetsu.jp>）

今回のホームページでお伝えしたかったのは、三つのこと。一つ目は、「建設業は世界で一番カッコイイ仕事だ！」ということを伝えたい。二つ目は、「建築には、未来を変える力がある。」という私たちの誇りや想いを知っていただきたい。そして最後に、社員の皆さまや自分自身が迷ったときに、このホームページを見て「そうだ、富士建設はこれを目指しているんだ。」と勇気づけられ、元氣とやる気が出てくるようなページにしたい。

「建築には、未来を変える力がある。」
「建設業は世界で一番カッコイイ仕事だ！」
この二つを皆さまに伝えるには、まだまだ我が社の取り組みも、力も、足りないかもしれない。でも、いつか胸を張ってこれらについて語れるよう、今後とも真摯に建築に向き合っていきたいと心から思っています。

*****御意見、御感想をお聞かせ下さい*****



建設業許可：香川県知事許可（特 23）第 189 号
／一級建築士事務所：香川県知事登録 第 416 号
号／宅地建物取引業免許：香川県知事登録（10）第 1997 号

富士建設株式会社

本社：〒769-1101 三豊市詫間町詫間 300 番地 1
TEL0875-83-2588（0120-832589）

FAX0875-83-5864

<http://www.fujikensetsu.jp>

mail y-manabe@fujikensetsu.jp（真鍋有紀子）

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。

また、県下において 1300 区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

■営業所：高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所

■中津万象園・丸亀美術館／丸亀プラザホテル／味処 懐風亭